Peppolが輝かせる「主役」たち ～野垣浩公認会計士・税理士事務所、デジタルインボイスの「自分ごと」化～

2025年12月1日、デジタル庁は、株式会社TKC（大阪SCGサービスセンター）のアレンジにより、野垣浩公認会計士・税理士事務所（大阪府池田市）の野垣浩氏との間で、同所におけるデジタルインボイスの実装について、意見交換を行いました。

まず、野垣税理士から「システム利用料の請求をデジタルインボイスで受けている」とし、「１件だけだが関与先事業者の方にデジタルインボイスで請求を行い始めた」との話ありました。

そのうえで、野垣税理士は「デジタルインボイスを利用するからといって既存の請求業務・処理が究極的に変わるわけではない」とし、「関与先事業者がデジタルインボイス利用のための最初の一歩を踏み出すためには、漠然とした『不安』を払拭してあげることが重要」との話がありました。

さらに、デジタルインボイスの利用がさらに広がっていくためには「システムを提供するサービスプロバイダーからの正確な情報提供と理解・協力が不可欠」とし、デジタル庁のみならずサービスプロバイダーにおいても「ユーザーの声を聞く」取組を継続することの必要性に言及しました。

野垣浩公認会計士・税理士事務所 野垣浩氏（写真左）と事務所の皆様